

5. 水環境保全のための今後の取組 (11) 統合的な環境管理の検討

現状

○環境問題は多岐に渡り、相互に関連しているが、各分野に規制法等があり、それらに基づいて対策等を実施。

課題

○環境負荷の低減にはコストがかかるが、各環境分野の取組の環境全体への負荷低減について、費用対効果が十分に検証されているとは言えない。

今後の方向性

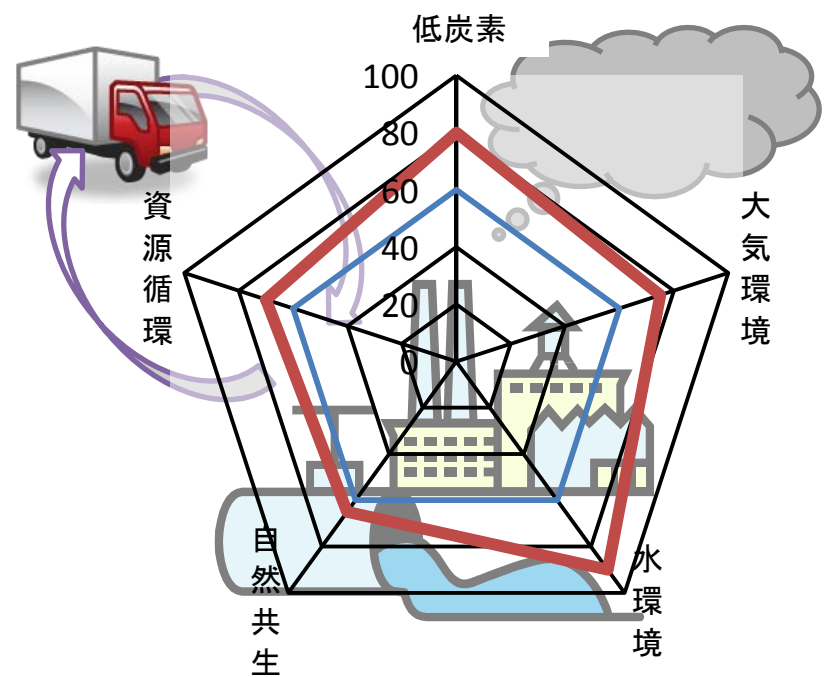
○多岐にわたる各環境分野の取組を、環境全体として総合的に評価する方策等を今後検討。

- ・BAT (Best Available Techniques 「利用可能な最善の技術」)
- ・ポリシーミックス (複数の政策手段を活用)

など

統合的な環境管理のイメージ

例えば、各分野の取組の数値化し、それらを総合的に評価し、環境負荷低減への貢献度を可視化。

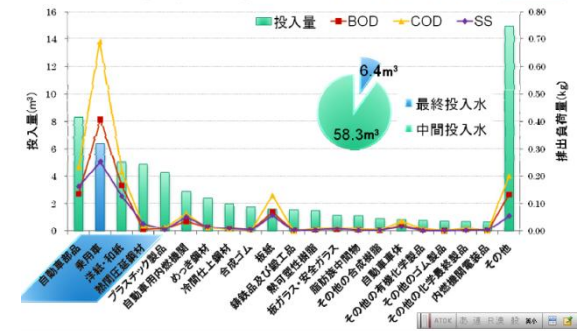


参考: 水分野の総合指標になりうるもの

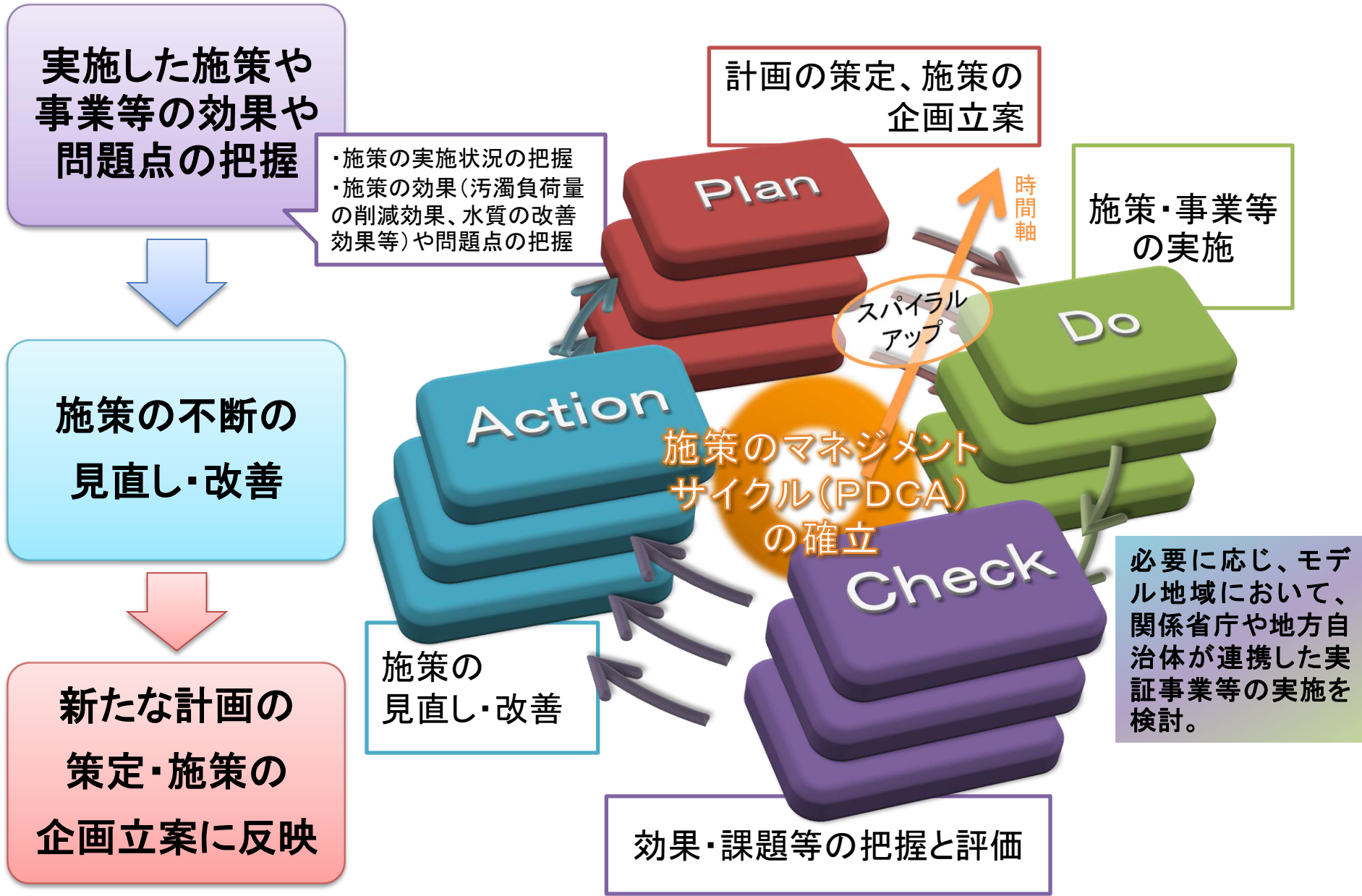
ウォーター・フットプリント
 ← 生産活動にともなう水環境への負荷(水量・水質等)を指標化。

ウォーターライフサイクルアセスメント(WLCA)による水資源量、汚濁負荷量の算定(東京大学)

乗用車のWLCA



5. 水環境保全のための今後の取組 (12) 施策のマネジメントサイクルの確立



実施した施策や事業等の効果や問題点の把握

・施策の実施状況の把握
・施策の効果(汚濁負荷量の削減効果、水質の改善効果等)や問題点の把握

計画の策定、施策の企画立案

施策・事業等の実施

施策の不断の見直し・改善

新たな計画の策定・施策の企画立案に反映

施策の見直し・改善

効果・課題等の把握と評価

必要に応じ、モデル地域において、関係省庁や地方自治体が連携した実証事業等の実施を検討。

施策のマネジメントサイクル(PDCA)の確立

スパイラルアップ

時間軸